2022年度第2回入学試験問題

国　　語

「始め」の合図があるまでは問題を見てはいけません。

注　　意

1　「始め」という合図で始め、「やめ」という合図で、すぐに鉛筆をおきなさい。
2　問題は2ページから8ページまでです。
3　解答用紙は問題冊子にはさまれています。
4　初めに、解答用紙に受験番号・座席番号・氏名を記入しなさい。
5　答はすべて解答用紙に記入しなさい。
6　字数制限のある問題については、かぎかっこ・句読点も一字と数えなさい。
7　文字は楷書(かいしょ)で、一点一画ていねいに書きなさい。
8　質問や用があるときは静かに手をあげなさい。

著作権の関係で、設問一（2ページ～5ページ）の問題文および設問を非公開とします。

著作権の関係で、設問一（2ページ～5ページ）の問題文および設問を非公開とします。

著作権の関係で、設問一（2ページ～5ページ）の
問題文および設問を非公開とします。

著作権の関係で、設問一（2ページ～5ページ）の
問題文および設問を非公開とします。

著作権の関係で、設問一（2ページ～5ページ）の問題文および設問を非公開とします。

二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

日本語はどこが特殊か。それは表意文字と表音文字を併用する言語だということです。

かつて中華の辺境はどこもそのようなハイブリッド言語を用いていました。朝鮮半島ではハングルと漢字が併用され、インドシナ半島では「チュノム（字喃）」と漢字が併用されていました。（中略）

その中で、日本はとりあえず例外的に漢字と自国で工夫した表音文字の交ぜ書きをいまだにとどめている。

漢字は表意文字（ideogram）です。かな（ひらがな、かたかな）は表音文字（phonogram）です。表意文字は図像で、表音文字は音声です。私たちは図像と音声の二つを並行処理しながら言語活動を行っている。でも、これはきわめて例外的な言語状況なのです。

文字と音声の両方を使うという点では世界中の文字言語はどこも同じじゃないかと言う人がいるかも知れませんが、**1**日本はちょっと違う。

これは養老孟司先生からうかがったことの受け売りですけれど、脳の一部に損傷を受けて文字が読めなくなる事例がいくつか報告されています。生得

的な難読症とは違います。文字処理を扱っている脳部位が外傷によって破壊された結果です。欧米語圏では失読症の病態は一つしかない。文字が読めなくなる。それだけです。ところが、日本人の場合は病態が二つある。「漢字だけが読めない」場合と「かなだけが読めない」場合の二つ。意味することはおわかりになりますね。漢字とかなは日本人の脳内の違う部位で処理されているということです。だから、片方だけ損傷を受けても、片方は機能している。

日本人の脳は文字を視覚的に入力しながら、漢字を図像対応部位で、かなを音声対応部位でそれぞれ処理している。記号入力を二箇所に振り分けて並行処理している。だから、失読症の病態が二種類ある。

言語を脳内の二箇所で並列処理しているという言語操作の特殊性はおそらくさまざまなかたちで私たち日本語話者の思考と行動を規定しているのではないかと思います。（中略）

もっとも際立った事例は「マンガ」という表現手段が日本において選択的に進化したという事実です。これに異論のある人はいないでしょう。マンガの生産量についても、質についても、（注1）イノベーションの速度においても、日本は世界を圧倒しています。（中略）

日本のマンガは日本の雑誌掲載時のスタイルのまま、文字は縦書き、頁は右から左へ進みます。欧米の漫画は文字は横書き、頁は左から右です。欧米の漫画を読みなれた読者にとって、物語が右から左へ移行するマンガを読むためには（注2）リテラシーそのものの書き換えが必要でした。そのようなリテラシーがまだ十分に育っていない時期は、日本のマンガは「裏焼き」され、欧米仕様の読み方で読めるように改作されていました。

それが今では、マンガだけは、欧米でも、日本で読むのと同じ製本、同じコマ割りで読めるようになった。欧米の若い読者たちがマンガをオリジナルの味わいで読むことができるように、彼らのリテラシーそのものを書き換えたのです。彼らが自分たちの文字の読み方の定型を崩しても惜しくないと思えるだけの水準の質に日本のマンガが達したということです。

なぜ、日本人の書くマンガだけが（とりあえず今までのところはということですが）例外的な質的高さを達成しうるのか。これは言語構造の特殊性によるのである、ということを**a カンパ**されたのは、これまた養老先生です（受け売りばかりして、すみません）。

白川静先生が教えるように漢字というのは、世界のありさまや人間のふるまいを図示したものです。白川漢字学の中心になるのは「サイ」という表意要素です。「サイ」は英語のDの弧の部分を下向きにしたかたちです。

この文字を後漢の『説文解字』以来学者たちは「口」と解したのですが、白川先生はこれを退け、これが「（注3）祝詞を入れる器」、もっとも根源的な呪具の象形であるという新解釈を立てました。そしてこれを構成要素に含む基本字すべての解釈の改変を要求したのです。

例えば、「告」は「木の枝にかけられたサイ」であり、それゆえ「告げる」とは「神に訴え告げること」になります。「サイ」を細長い木につけてささげると「史」になります。聖所に赴くときは、大きな木に「サイ」をつけ、吹き流しを飾り、奉じて出行する。「A」は「サイ」と「兄」の合字です。「兄」は祝禱の器であるサイを奉じて祖霊に祈る人を指します。サイを二つ並べると「兕」となり、これは烈しい祈りを意味します。祈りを通じて忘我の境位に達すると「兌」という。「兄」（祖霊に祈る人）の上に「八」を加えたものであり、「神気が髣髴としてあらわれることを示している」などなど。

白川先生の解釈から私たちが知るのは、古代の呪術的な戦いは言葉によって展開したということです。「文字が作られた契機のうち、もっとも重要なことは、ことばのもつ呪的な機能を、そこに定着し永久化することであった」ということです。

私たちはもう漢字の原意を知りません。けれども、漢字がその起源においては、私たちの心身に直接的な力能をふるうものであったという記憶はおそらくいまだ意識の深層にとどめている。漢字というものは持ち重りのする、熱や振動をともなった、具体的な共物質性を備えたものとして私たちは引き受けた。そして、現在もなお私たちはそのようなものを日常の言語表現のうちで駆使しています。

私は日本人が漢字を読むときに示す身体反応と、中国人が漢字を読むとき

に示す身体反応は違うだろうと思います。中国人にとって、漢字は表意文字であると同時に表音文字でもあるからです。だから、外来語をそのまま漢字に音訳して表記することができる。日本語は外来語はカタカナ表記で処理しますから、漢字は表意に特化されている。だから、漢字の表意性は中国語においてよりも純粋であり、それだけ強烈であるはずです。だとすれば、白川漢字学の言う漢字の「呪的機能」は現代中国より現代日本においていまだその**2**残存臭気をとどめているのではないか。

アルファベットを用いる言語圏と、漢字を用いる言語圏での難読症の発生率には有意な差が示されていますが、おそらく日本語話者において、難読症の発生は世界でもっとも少ないはずです。医学的にはまったくの素人の推測ですから、専門家は取り合ってくれないでしょうけれど、文字がざくりと身体に刻み込まれ、切り込んでくるという感覚の鋭さは、日本語話者と英語話者では明らかに違う。(注4)“curse”という文字が英語話者にもたらす不安と(注5)〝呪〟が漢字読者にもたらす不安は質が違うはずです。

私たちは言語記号の表意性を物質的、身体的なものとして脳のある部位で経験し、一方その表音性を概念的、音声的なものとして別の脳内部位で経験する。養老先生のマンガ論によりますと、漢字を担当している脳内部位はマンガにおける「絵」の部分を処理している。かなを担当している部位はマンガの「ふきだし」を処理している。そういう分業が果たされている。

マンガは「絵」と「ふきだし」から構成されています。「ふきだし」が文字で書かれているので、私たちはそれが表意機能ではなく、表音機能を担っているということをうっかり見落としていますが、間違いなく［　B　］。

私が子どもの頃、マンガを読むとき、「ふきだし」部分を音読している子どもがずいぶんいました。あの子どもたちはおそらく音読することを通じて、『ふきだし』は音声記号として処理せよ」という命令を自分の脳に**b**ス込んでいたのではないでしょうか。私自身はマンガを黙読していましたが、それは幼児期からのマンガのヘビー・リーダーであったために「ふきだし」を表音記号として処理する回路がもう出来上がっていたからではないかと思います。というのは、音読していると頁をめくる速度が遅くなるからです。**3**寸暇を惜しんでマンガを読んでいる身としてはそんな手間暇をかけるわけにはゆかない。

マンガを読むためには、「絵」を表意記号として処理し、「ふきだし」を表音記号として処理する並列処理ができなければならないわけですが、日本語話者にはそれができる。並列処理の回路がすでに存在するから。だから、日本人は自動的にマンガのヘビー・リーダーになれる。

一方、欧米語話者には処理回路が一つしかない。もちろん読書人の中には幼児期から大量の文字情報に接してきたせいで、表音文字で綴られた語を表意的に読むという技術を習得している人はいると思います。Quixotic という文字を見ると、「クイクサティック」という聴覚像より先に、ロシナンテにまたがり、サンチョ・パンサを供に荒野を行く憂い顔の騎士の画像が浮かぶという人がいても不思議はありません。けれども、アルファベットを一瞥すると、それが表意的に立ち上がり、ある種の物質性を持って直に身体に触れてくるような「白川静的」読字経験ができるためには、どうあっても長期にわたる集中的な、ほとんど偏執的な読書体験が必須です。その条件を満たす人はごく少数にとどまるでしょう。(中略)

だんだん話が逸脱してきましたけれど、マンガの話をしていたのでした。「絵」と「ふきだし」を並列処理できるマンガ・リテラシーは、表意文字と表音文字を並列処理する特殊な言語である日本語話者において特権的に発達したという話です。ですから、マンガ分野における日本マンガの「一人勝ち」状態はこれからしばらく続くと思います。ただ、アニメは事情が違います。アニメの場合、観客には「ふきだし」の文字を音声的に処理するという手間が要求されませんし、だいたいアニメの上映時間は世界中どこでも同じですから、「アニメ・リテラシー」の差は国語間では顕在化しません(マンガ一頁を読むのに要する時間は個人のマンガ・リテラシーの差を示す一番わかりやすい**c**シヒョウですけど)。

(内田樹『日本辺境論』〔新潮社〕より)

注　1　イノベーション……技術の革新。
　　2　リテラシー……読む能力。
　　3　祝詞……神に祈るときに用いることば。
　　4・5　“curse”〝呪〟……ともに「のろい」の意。

問1　傍線部**a**～**c**のカタカナを漢字に直しなさい。

問2　傍線部**1**「日本はちょっと違う」とありますが、どのような点で違うのですか。次の文の二つの□にふさわしいことばを、それぞれ二十字以上三十字以内で補って、答えなさい。

日本語の表記では、□**二十～三十字**□という点と、日本語話者は、脳内で□**二十～三十字**□という点。

問3　**A**に入る最もふさわしい漢字一字を本文中から探して、書き抜きなさい。

問4　傍線部**2**「残存臭気をとどめている」とありますが、その内容の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　日本語の漢字からは、作られた当初と同じように原意が感じられるということ。

イ　日本語の漢字からは、漢字の呪術的な働きを何となく感じられるということ。

ウ　日本語話者は、漢字の持つ音を身体的な実感をともなって感じられるということ。

エ　中国語話者は、漢字の音の持つ呪術的な力能を意識の深層に記憶しているということ。

オ　中国語の漢字には、古代の呪術的な戦いの痕跡（こんせき）が日常表現として残されているということ。

問5　**B**に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア　「ふきだし」は文字なのです

イ　「ふきだし」は画像なのです

ウ　「ふきだし」は音声なのです

エ　「絵」は表意的なのです

オ　「絵」は概念的なのです

カ　「絵」は視覚的なのです

問6　傍線部**3**「寸暇を惜しんで」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　休みの時間を削っても

イ　時間が少し遅くなっても

ウ　多くの時間をかけてでも

エ　大切な時間を費やして

オ　わずかな時間も無駄にせずに

問7　本文の内容として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　日本語の処理の特殊性と、「絵」と「ふきだし」を処理するリテラシーには対応関係がある。

イ　世界の文字言語の大半は文字と音声の両方を用いるので、欧米でもマンガ・リテラシーは発展してきた。

ウ　多くの漢字学者が漢字の持つ呪的機能を考慮せずにその起源の研究を行った結果、漢字の使用者も呪的機能を忘れてしまった。

エ　マンガは、文字は縦書き、頁は右から左に進む形式で発達し、日本人のマンガ・リテラシーに適合した芸術形式となった。

オ　欧米語話者はマンガを読むために、長期にわたる集中的な読書体験を積んで、文字から画像を浮かび上がらせるリテラシーを身に付けた。

2022年度 第２回	国　語	受験番号	座席番号	氏名	

一

問1

問2

問3 イオ先生は意味のわからない指示をするにも関わらず、

力がある人だということ。

40

30

問4

問5

問6

問7

二

問1

a

b

り

c

問2 日本語の表記では、

という点と、日本語話者は、

20

30

問3

問4

問5

問6

問7

脳内で

20

という点。

30

合計